

聖書:ダニエル書4章19～28節

説教:いと高さ方が支配する国

はじめに

南王国ユダはBC605年にバビロンの軍隊の包囲され、そのときまだ少年であったダニエルは国の主だった人達と一緒にバビロンに捕らえ移されてしまいました。故国を失い、名前も奪われ、バビロンの王ネブカドネツアルが信じていた異教の神々にちなんでベルテシャツアルという名で呼ばれるようになる。そんな屈辱を受けながらも彼は王の側近にとりたてられ、王が見た夢のことで、二度にわたる大きな事件に関わっていくこととなります。

最初の事件は、国中の学者のだれもが夢を解き明かすことができないと知った王が全員殺すと怒ったときに起きました。何の関係もなかったダニエルまで巻き込まれあやうく殺されかけてしまうのですが、神が王の見た夢とその意味を説き明かしてくださったので、難を逃れることができた。それが最初の事件でした。

二度目の事件は、バビロンが繁栄の絶頂にあったときに起きました。宮殿で心安らかに過ごしていた王は、夢を見て冷静さを失い、再びダニエルを呼び、夢の意味を解き明かすように命じます。そのときダニエルはどのように応答していったのか。そしてそこにどのような神のみこころが示されていたのか。ともに見てまいります。

## 1 動揺するダニエル (ベルテシャツアル)

### 1) 思慮深さをもって対応した (2章)

内容を見ていく前に、最初の夢の事件と4章に書かれている二度目の事件と、ダニエルがどのような様子であったのか比べてみます。一度目の事件の時のことですが、彼は死刑の宣告を受けながら2章14節には、「智恵と思慮深さをもって対応した」と書いてあります。王の前に出たときも、ダニエルは恐れる様子はありませんでした。ところが二度目の事件となる4章19節には、「ダニエルは、しばらくの間驚きすくみ、いろいろと思い巡らして動揺した」とあります。最初の時はあれほど落ち着いたダニエルがどうしてこのように動揺してしまうのか不思議です。

理由は二つ考えられます。当時、世界の中でもっとも繁栄を極めていた超大国バビロンの王に対し、「あなたは人間の中から追い出される」と言わなければなりません。また27節では「罪を除き

なさい」と言って王に勧告までしています。世界の富と権力を握り、繁栄の頂点にあった人にこのような事を言ったら、非常に感情の起伏が激しい王のことですから、王は顔を真っ赤にして怒り、「お前を殺す」と叫ぶかも知れませんがこれは命懸けになる。それで動揺したのでしょうか。

でも、ダニエルの三人の友人たちはどうだったのでしょうか。彼らは、王の脅迫に屈せず信仰を守り通し、火の燃える炉に投げ込まれたときでさえ、動揺するそぶりはなかったのです。であるなら、ダニエルが動揺するのはなにか別の理由があると考えべきでしょう。

## 2) 天の神をほめたたえた (2章)

それでもう一度最初の夢の事件に戻り、ダニエルが神から夢の意味を知らされたとき、どう応答したのかを見てみましょう。2章19節にこうあります。「そのとき、夜の幻のうちにこの秘密がダニエルに明らかにされた。ダニエルは天の神をほめたたえた。」そうして20節以降では神を賛美していく。なぜ賛美するのか。2章44節。「この王たちの時代に、天の神は一つの国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされることがなく、その国はほかの民に渡されず、反対にこれらの国々をことごとく打ち砕いて、滅ぼし尽くします。しかし、この国は永遠に続きます。」このようなすばらしい神の秘密が明らかにされたので賛美した。

ところがこの箇所になると、彼は驚いて動揺してしまう。いったいどのようなことを知らされたのでしょうか。夢の内容を少し詳しく見ていきます。

## 2 夢の解き明かし

### 1) 天に届く木と地に残される根株

2章に出て来る夢は、象徴的な表現があってわかりにくかったのですが、今度の夢はそれに比べればわかりやすいかもしれません。地の中央に立った一本の木が、「高さが天に届いて、地のどこからも見え」るほど高く生長して強くなるという夢を見た王に対し、ダニエルは22節で、「王よ、その木はあなたです」と告げます。

ところがその木に異変が起きます。23節。「しかし王は、一人の見張りの者、聖なる者が天から降りて来てこう言うのをご覧になりました。『その木を切り倒して滅ぼせ。ただし、その根株は、鉄と青銅の鎖をかけて、地に、野の若草の中に残

せ。彼を天の露にぬれさせて、七つの時がその上を過ぎ行くまで野の獣と青草を分け合うようにせよ。』」

続く24節以降では、ダニエルが夢の意味を詳しく解き明かします。まとめれば、天にまで生長した木が切り倒され、王が人間の中から追い出されるというあたりは厳しい内容ではあっても、残った根株があるので、あなたの国は堅く立つことになる。非常に明るい未来がまっている、そんな結論です。夢のときあかしとしては26節まで十分です。ダニエルはそこで終わっていいはずなのです。

## 2) 罪を除きなさい

ところが続きがある。27節。「それゆえ、王よ、私の勧告を快く受け入れて、正しい行いによってあなたの罪を除き、また貧しい者をあわれんであなたの咎を除いてください。そうすれば、あなたの繁栄は長く続くでしょう。」

ダニエルが王の夢から何か大切なことを知らされ、なにか切羽詰まるようにして、「あなたの罪と咎を除きなさい」と語っているように思えます。決して耳に心地よいことばではありません。まして相手はバビロンの王です。「なんと無礼な」と王が怒り、殺されるかも知れないのです。それでもダニエルは言わざるを得なかった。なぜなのか。そしてそれは最初ダニエルが驚き、すくみ動揺したこととどのように関係があるのか。次にそのことを考えます。

## 3 神の救いのご計画

### 1) 「あなたの国」とは誰の国なのか

そこで考える糸口として26節の「あなたの国はあなたのために堅く立つでしょう」に着目します。「あなたの国」とは、いったい誰の国でしょう。もちろんネブカドネツアル王の国。バビロンを指すのは疑いがない。というのは、この後、王がどうなったか見れば明らかなのです。ダニエルが語ったように、王は野の獣と住むようにはなるけれど、やがて王の座に戻ります。ダニエルは「あなたの国」とはネブカドネツアル王の国のこととして言った。それ以外にあり得ない。そう考えたいところなのです。

しかしそれでは説明がつかないことがひとつ残ってしまう。あなたの国がもしバビロンをさすのなら、ではバビロンはいつまで堅く立ったのか。BC539年に滅んでしまいます。ダニエルは、バビロン帝国が崩れ去り、次にペルシャが世界を支配し

ていくのを自分の目で見ることになる。とても「堅く立つ」とは言えない。

関連して言えば、2章44節のこともそうです。

「天の神は一つの国を起し、この国は永遠に続きます」とダニエルは言った。2章の「永遠に続く国」のことをバビロンだとすると、やはり辻褄が合わなくなる。

### 2) ダニエルは誰に仕えているのか

ではどう考えたらよいか。ダニエルは誰に向かって語っているのか。そこをもう一度考え直したらどうでしょう。ネブカドネツアル王に向かって語っていると、皆さんは思うかもしれませんが、しかしダニエルは信仰者です。信仰者が誰に仕えるのかについては、彼の三人の友人たちが証ししています。3章16節。「もし、そうなれば、私たちが仕える神は、火の燃える炉の中から私たちを救い出すことができます。」自分たちは神である主に仕えている。ダニエルも同じです。

彼は神に仕えています。その次に神がお立てになった王であるネブカドネツアル王に仕える。そのような順序がある。ダニエルはネブカドネツアル王に語っているように見えながら実は神である主に語っている。そのように考えると、2章の「永遠に続く国」、そして4章の「あなたの国は堅く立つ」、そう言われる国とは神の国のことになりますから、すべて辻褄が合うことになります。

### 3) みこころにかなう者に与える

そのような前提に立ってここを読むと、ダニエルがなぜ驚いて動揺したのかわかってきます。神が起こしてくださる国は永遠に続きます。しかしその前に一度切り倒されなければなりません。もうこの木は終わりだと思っていたら、残っていた根株からもう一度芽が出て大きな木となり、それが永遠に続く国となる。そのとき王はどうなるのか。人間の中から追い出されて、地上で最も低い者とされていく。その方がやがてみこころにかなう者となられて神の国の王となられる。ここまで語れば、この方がいったいだれのことかお気づきでしょう。これは、イエス・キリストのことではないですか。

2章の最初の夢の時、神の国が与えられることは知らされても、それがどのようにして与えられるのかまではわかりませんでした。でも王の二度目の夢を通して初めて知らされました。この地上に神の国を打ち立ててくださるとき、まず神である方が切り倒されて人間の中の最も低い者とされ、神の

みこころにかなう者とされる。そして初めてその方は神の国の王座に就かれる。罪人を救うために神がそのようなわざを成し遂げてくださる。

ダニエルはそれを知って驚きます。そして問いかけられます。自分神の前でいったい何者であったのだろうか。罪深い者のために神がいのちをお捨てになられる。そのような神の救いのみわざを自分は語る資格があるのか。そのことを思うと、動揺して語る事ができないのです。

さきほどダニエルはどうしてわざわざ王の耳には厳しく聞こえるような27節を言ったのだろう。それが疑問だと言いました。「それゆえ、王よ、私の勧告を快く受け入れて、正しい行いによってあなたの罪を除き、また貧しい者をあわれんであなたの咎を除いてください。そうすれば、あなたの繁栄は長く続くでしょう。」

どこかの政治家のように、自分は特別であるとふんぞりかえりながら忠告しているのではない。主の救いのご計画を知ったとき、ダニエルは自分はどうなのかと振り返ることになったのです。自分がいかに罪深いか。王のことを言う前に自分こそ悔い改めなければならない者である。その救いは自分の者だけではない。神は王にも救いを与えようとしておられる。それが27節のことばとなってきます。

ダニエルの解き明かしを通して、いと高き方でありながら低くなられたイエス・キリストが浮かび上がります。